

ろう者が捉えた震災映画

ろう者の映像作家が東日本大震災で被災したろう者らの姿を追った映画「架け橋」が、こえなかつた3・11」が17日から、東京で公開される。災害などの非常時に、見過ごしがちな弱者の安全をいかにして守るかを考えさせる作品だ。

監督を務めたのは、生まれつき聴覚に障害を抱える今村彩子さん(34)〔写真〕。今村さんは大震災直後の2011



ドキュメンタリー 東京で公開

年3月22日、ろう者向けのC-S放送番組のスタッフと一緒に宮城県に入った。避難所で会つたろう者から「津波警報が聞こえなかつた」と聞き、大震災の取材を始めた。

その時から、同年12月までに計4回、同県の避難所や仮設住宅を訪問し、ろう者の避難体験や暮らしぶりなどを取材。約20~30分の短編映画「架け橋」シリーズ4本を制作した。ろう者への情報提供のあり方や、周囲とのコミュニケーションの難しさなどの課題

を浮き彫りにした。

今回公開する作品は、それらの短編を再編集して1本にまとめ、今年7月にこれまでに話を聞いた人の現状を追跡取材した内容も加えている。

「命に関わる情報に格差があつてはならない。作品には、重要な情報があらゆる人に伝わる社会になつてほしいとの思いを込めた」と、今村さん。映画の上映実行委員会プロデューサーを務める阿久津真美さんは「隣近所や地域での日々からつながりの大切さが

分かる作品。ろう者ら、災害弱者との関わり方を考えるきっかけとして、多くの人に見てもらいたい」と話している。実行委では今後、全国各地で上映を検討している。

作品は23日まで毎日午前10時から、東京都新宿区の映画館「新宿K'S cinema」(03・33352・2471)で上映。73分。料金は当日一般1500円、学生・シニア(60歳以上)・障害者1000円。17日には今村さんの舞